コーナン建設株式会社

企画・設計からアフターケアまで「設計施工一貫システム」が強み

建築物の設計・施工からアフターケアまで総合的なサービスを提供する。ビル、マンションのほか、公共施設、教育施設など手掛ける案件は幅広い。「技術は人なり」の理念で育成した生え抜きの技術者が成長を支えている。

今年、創業70周年を迎えたコーナン建設株式会社。戦後の復興期に創業者が建材を扱う会社を興し、のちに建設業へと転換。高度経済成長期には、公営住宅や学校建設などの公共工事を多数手掛けた。

「官公庁の厳格な施工監理を通じて力を付け、民間工事にも進出した。1986年にCI（コーポレート・アイデンティティー）を導入し、企業イメージを一新。このとき、民間工事の受注を増やすための戦略として、設計施工により特命受注を目指す設計施工一貫システム『ワンダイレクト・パッケージ』を打ち出した」と代表取締役会長の原眞一氏は同社の歴史を語る。

同社の設計施工一貫システムとは、企画提案から設計・施工、保守、リニューアルの提案までをトータルに提供すること。同社は施主の意向に沿った建物をスピーディーに造れる同システムを強化してきた。それが評価され、私立女子大学のキャンパス建設や短大の全面移転プロジェクトなど、大型案件で着実に実績を積み重ねてきた。

設計施工を獲得するには、顧客の理解や納得を得るためのプレゼンテーションが何より重要になる。そこで同社は、一般的な平面図やパースで説明する以外に、BIM（ビルディング・インフォメーション・モデリング）をいち早く導入し、3D（立体）画像で建物や室内のイメージを伝えたり、屋内や周辺を歩いたときの目線で動画を作成したりと、独自の提案力を磨いてきた。

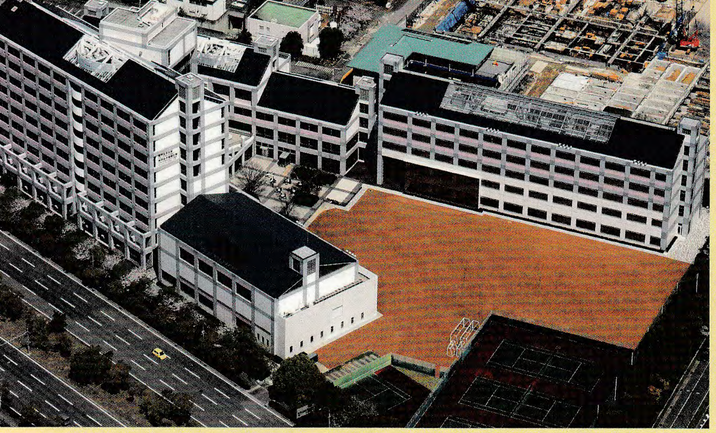
「互いに意思の疎通を図り、完成までのイメージを共有できる設計施工一貫方式は、施主にとってリスクが少ないと考えている。同時に、弊社にとっては、着工時期、人員配置などの見通しが明確になり、経営計画が立てやすい」（原会長）。

近年の受注は、民間工事の設計施工やリニューアル受注、競争入札による受注、公共工事受注がそれぞれ3分の1ずつとバランスが取れており、これが経営の安定と好業績につながっている。

大阪市北区にある本社ビル

Corporate Profile

代表取締役会長　原眞一
代表取締役社長　原恭平
所在地　大阪府大阪市北区大淀南1-9-10
創業　1948年3月
売上高　206億9,900万円（2018年3月期）
従業員　252名（2018年3月現在）
http://www.cohnan.co.jp



大型案件の1つ、神戸女子大学・神戸女子短期大学ポートアイランドキャンパス。体育館や図書館など、多様な建築物にコーナン建設株式会社の持つ総合力が生かされている

大阪労災病院の職員宿舎「Osaka Rousai Hospital シャイン金岡」（大阪府堺市）。合計237戸の大型案件の施工を手掛けた

卓越した技術力をもつスペシャリスト集団を育成

同社の牽引力となっているのが、高い技術力を誇る社員たちだ。167名の技術者のうち、一級建築士、構造設計一級建築士、設備設計一級建築士などの一級技術有資格者は148名に上る。「『技術は人なり』というのが当社の考え。自前の選手を強力な戦力に育てる広島カープ方式を理想とし、新卒者を一から育てることを伝統としてきた」と原会長は話す。資格取得を支援する制度を設けるなど、社員の育成には今後も力を入れていくという。

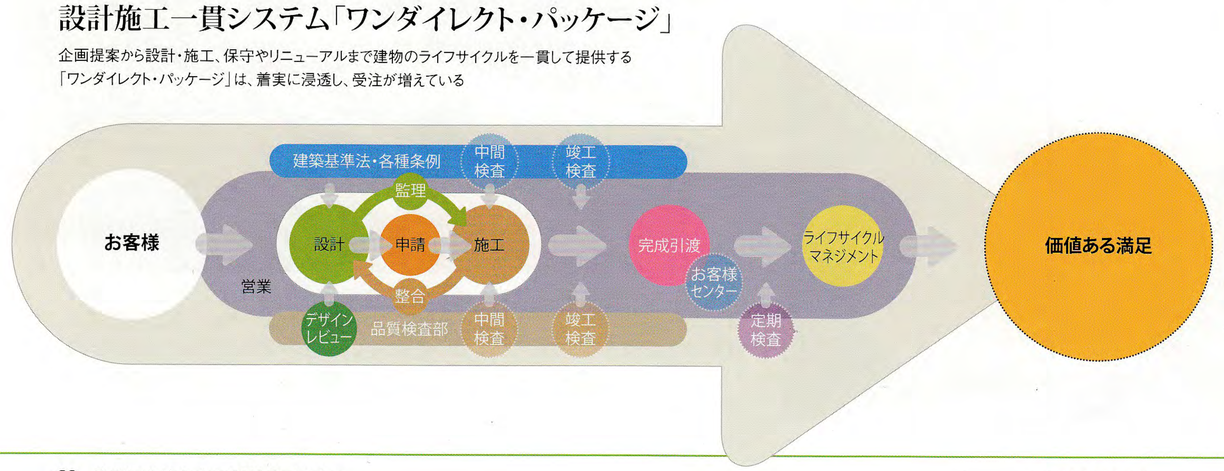
建設業は女性の就労が少ない業界だが、同社では女性の活躍が光っており、女性の取締役も誕生した。希望者は子どもが小学校入学まで時短勤務ができるなど、仕事と子育てを両立しやすい職場環境を整備し、長期雇用につなげている。

7月から原眞一会長、原恭平代表取締役社長という新経営体制となり、一層の事業拡大を目指す。「まずは建設需要が旺盛な首都圏での受注を増やす。現在6：4の関西圏と首都圏の売り上げ比率を同程度にしたい。設計施工一貫システムのレベルアップ、社内業務システムの改革も進め、生産性向上につなげていく」（原会長）。建築のエキスパートとしての強みをさらに高めていく。 MP

「強みの設計施工一貫システムをさらに磨き、関西圏、首都圏でのプレゼンスを高めていきたい」と話す原眞一代表取締役会長

設計施工一貫システム「ワンダイレクト・パッケージ」

企画提案から設計・施工、保守やリニューアルまで建物のライフサイクルを一貫して提供する「ワンダイレクト・パッケージ」は、着実に浸透し、受注が増えている



下の写真／山本さとる